

郡中御影報恩講



日時 7月23日(火)午前9時より

会場 称名寺 (小松市西町96番地)

講師 ^{よつつじ} 四衢 ^{あきら} 亮氏 (高山教区 不遠寺住職)

講題 「凡夫」は、すなわち、われらなり。



講師 四衢 亮氏
高山教区 不遠寺住職
(写真は赤羽別院真宗講座のもの)

日程	8:00 勸歸寺出発 (御影道中)	10:30 法 話
	8:30 称名寺到着	11:45 お 齋
	9:00 郡中御影報恩講 勤行	13:00 相続講員物故者追弔法要
	内局挨拶	13:30 法 話
	各組功労感謝状授与	15:00 終 了
	各組功労者表彰状授与	

みなさま、お誘いあわせて、お参りください

主催：真宗大谷派小松教区 (小松市小馬出町26 TEL 0761-22-0555)

「郡中御影報恩講」って？

「郡中御影」は、約400年前の1595年に、本願寺教如上人から能美郡二百二十余カ村からなる「四日講」に交付された、「親鸞聖人」と「顕如上人」の御影（御絵像）です。

当時、天下統一をもくろむ織田信長は、本願寺に対して軍事・経済の両面から執拗な制裁を加えます。それに対し本願寺門徒は大坂（石山）本願寺（現在の大阪城の地）を中心に、1570年から十年間の弾圧に耐え忍びました。世にいう「石山合戦」です。

本願寺門徒を根絶やしにするため皆殺しにしていた信長軍に対し、本願寺第11代顕如上人の長男である教如上人は徹底抗戦を決して、全国の門徒に檄文（波佐谷の「手の内御書」など）を飛ばし、父・顕如上人と対立しながらも大坂本願寺に籠城しました。

石山合戦では、お念仏の教えに生きるご門徒が全国各地から応援に駆けつけました。

能美郡中からは、特に選抜された多くのご門徒が大坂本願寺に馳せ参じたと言われています。郡中御影は、その労苦にこたえ、教如上人から交付されました。

郡中御影報恩講は、小松六カ寺が持ち回りで会所となり、この二幅の御影をお掛けして、毎年7月23日にお勤めされています。また、以前は秋茄子が採れ始める8月にお勤めされていたことから、「なすびの報恩講」（なすびのほんこさん）としても親しまれています。



勧帰寺（出発）⇒ レンガ通り ⇒ 八日市通り ⇒ 西町通り ⇒ 称名寺（到着）

お車の駐車は、勝光寺さん又は本蓮寺さんの駐車場をご利用ください。
また、駐車スペースに限りがありますので、出来るだけ乗り合わせてお参りくださるようお願いいたします。